

小麦の町びえい・衛星リモセンで小麦の安定生産を目指す（上川農業改良普及センター大雪支所）

背景

【美瑛町の概要】

- 耕地面積12,600haのうち、畑地は10,400ha・8割を占める
- 傾斜の畑地は、土壌理化学性が不均一なため、作物の生育もばらつきやすい
- 農家数減少に伴う個別経営体耕地面積増加の結果、労働省力的な小麦の作付面積が増加している

【地域の課題解決の方向性】

- 小麦に偏重した作付体系の見直しと平行して、地域ブランドである「小麦」の生産量と品質の安定が欠かせない
- ほ場内の生育良否を可視化した衛星リモセンマップに基づく窒素施肥で肥料を過不足なく使用
- 肥料の適正使用により、小麦の生産量・品質の安定に加えて、環境負荷軽減を期待できる

普及活動内容

- 衛星リモセン試験利用へJA生産部会、町スマート農業推進協議会と連携し、重点地区農業者の先行利用から技術の有効性を検証
- リモセン事業者、農機メーカーと研修会を開催し、利用を促進



- 聴き取り、意見交換会で使い勝手や利点、改善点等を把握し、技術の長短所を一覧に整理



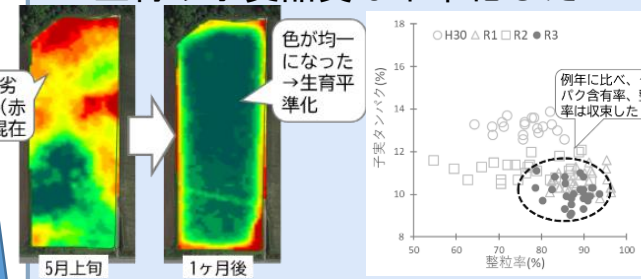
衛星リモセン使用農業者の所感

| 衛星リモセンの優点・利点 | 不満・改善点 |
|---------------------|-------------------|
| ◎有用なデータ。経験と組み合わせる使用 | △雲に遮られて見られなかった |
| ◎マップを見ながら家族に説明できる | △マップほどの差はないように感じた |
| ◎感覚に頼っていたところを確認できる | △小麦以外ももう少し早く見たい |
| ◎可変施肥、位置決め用の根拠になる | △経験、感覚の方が実態に近い |
| ◎生育良否の裏付けになる。他人との比較 | △操作に慣れないと手軽に見られない |
| ◎小麦の収穫判断に使える | △刈り取り適期判断できない |
| | △色の差の意味するところは?? |

普及の成果

【具体的な成果】

- リモセンマップ生育良否から窒素量を増減させた施肥を実施。生育や小麦品質は平準化した



- 美瑛町農業者8戸・2集団が新たに衛星リモセンを利用開始

【成果のポイント】

- 「見える化」した生育マップの活用方法、有用性を農業者が実感し、地域で共有できた結果、波及につながった
- 調査・実用性確認、報告会開催等をJA・町と協力して実施し、技術の有効性を効果的に知らせることができた

衛星リモセンを収穫判断の目安に利用できるか検証中